



TOPIC
1

アカデミック・コアの愛称が「S k y ACADEMIC CORE」に

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学（以下「岐阜大学」）とS k y株式会社（東京本社：東京都港区 / 大阪本社：大阪市、代表取締役：大浦淳司、以下「S k y」）は、大学施設のネーミングライツ契約（令和5年10月1日～令和9年9月30日）を締結しました。

令和5年10月1日から図書館1階アカデミック・コアの愛称は「S k y ACADEMIC CORE」となりました。岐阜大学における初めてのネーミングライツ施設であり、岐阜県内の大学施設でも初めてとなります。

この施設は、授業時間外の自主的な学修活動の場として、岐阜大学の構成員すべてが自由に利用できる学習空間です。従来の図書館で見られるような「静かな学修」ではなく、ディスカッションしたりプレゼンテーションしたりと、お互いが声を出し合っって学びを深める場として約110人が同時に使用可能です。また、学習方法などを相談できる学生スタッフが常駐しています。これを機に、岐阜大学とS k yは連携して、「S k y ACADEMIC CORE」の愛称が多くの子生に親しまれ定着するよう努めてまいります。

(有川美香)



S k y ACADEMIC CORE

TOPIC
2

第14回教養講演会(11/22)の報告

演題：第14回教養講演会「交流分析で読み解くムーミン物語」開催

講師：池田文人氏（北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部教授）

開催日時：令和5年11月22日（水）13時00分から15時00分

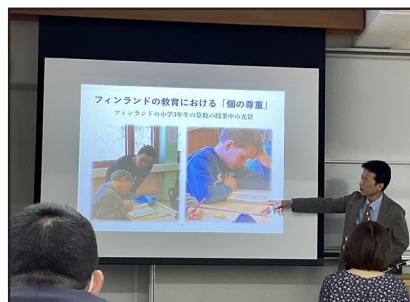
参加者数：44名

今回の教養講演会では、北海道大学から池田文人先生に来ていただき、同大学の全学教育科目として開講されている講義「ムーミン谷の仲間たち」のエッセンスをふんだんに織り込んでご講演いただきました。北海道大学では、毎年受講生が殺到する人気の講義として有名です。池田先生は企業で勤務しながら工学博士を取得後、北海道大学に着任されました。以後、学力世界と言われるフィンランドの教育に興味を持たれています。フィンランドの教育は「子どもたち一人一人の尊重と他者との交流を通じた自立」を目指していることを知り、学生にそれらを伝えるための手段としてムーミン物語の研究を始められました。そこで、ムーミン物語には私たちが生きる上で大切なメッセージが込められていることに気づかれたそうです。

ご講演では、フィンランドの地理や歴史、文化などのお話から始まり、ムーミン物語の「ぞっとするはなし」に登場するホームサの嘘の発話を交流分析で読み解き、言葉の裏に隠された意味を解説していただきました。「偉大なウソつきは偉大な魔術師だ」「ウソを大声で時間を費やして語れば人はそれを信じる」で思い浮かべるのは、ヒトラーです。ムーミン物語の作者であるトーベ・ヤンソンが憎んだのは戦争で、ヒトラーとホームサを重ね合わせていたのかも知れないとのことでした。

ムーミン物語のムーミントロールと言えば、白くて少し太めのずんぐりむっくりの体型のためか、穏やかな雰囲気を出すいわゆる癒し系の印象があります。しかし、私たちに、「自立」や「ありのままを受け入れる」ことの大切さを訴える物語であることが分かりました。今後の日常生活において、自分と同様に他人も受け入れられる寛容さを養う必要性を実感しました。

(清島 絵利子)



池田 文人先生ご講演の様子

演題：全学共通教育の大変革から1年 4つの部会からの報告

講師：洞澤 伸氏（言語と文化部会長）
 大宮 康一氏（岐阜学部会長）
 横田 康成氏（数理・データサイエンス・AI部会長）
 白村 直也氏（社会人リテラシー部会長）
 清島 絵利子氏（教育推進・学生支援機構准教授）

開催日時：令和5年12月11日（水）15時45分から17時00分
 参加者数：45名



瀨瀬 守先生による概要説明

まず初めに、基盤教育センター長の瀨瀬守先生より、令和4年度から改編・新設された4つの教養科目群を含めた全学共通教育科目の概要説明がありました。その後、引き続き、改編・新設された各部会長の先生方から科目の紹介と現状報告をしていただきました。

言語と文化科目（洞澤先生）

教員の所感や学生の声からは、言語を修得するだけではなく、その言語が話されている国の文化や時代背景への関心・理解が深まるなど、語学を学ぶ意識が高まっている様子がうかがえることや学生の授業満足度にも上昇傾向が見られるなどの現状報告がありました。課題としては、自由選択となった演習科目の履修者を増やすこと、専任教員が定年退職していく中での担当教員の確保などがあげられました。

岐阜学科目（大宮先生）

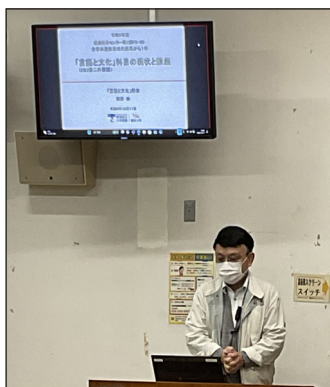
多様な分野の科目が展開されている中で、インターンシップ科目（地域系・産業系）、対話の場を企画する科目、次世代地域リーダー育成プログラム・上級段階科目についての事例紹介がありました。また、学生が講義や演習を通して地域のことを知り、地域に愛着を持ってもらうことを期待しており、令和6年度も新規科目を開講するなど充実した学びの環境を整えていきたい旨の報告がありました。

数理・データサイエンス・AI科目（横田先生）

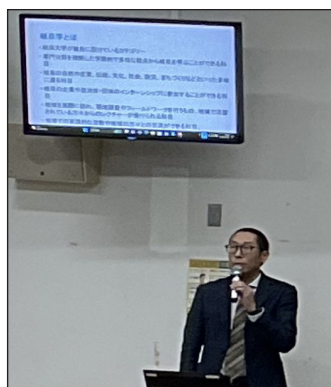
内閣府、文部科学省及び経済産業省が創設した「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に対応するために、同一法人の名古屋大学と連携し、共通の教材（動画、PDF）、問題プールを使用した教育を実施（講義、演習）し、令和5年度に岐阜大学はリテラシーレベル（全学部）と応用基礎レベル（理系学部のみ）の認定を受けました。今後さらに、岐阜市立女子短期大学や中部学院大学とも教育連携（連携開設科目を提供）し、東海地域における大学の数理・データサイエンス・AI教育の基盤を確立していく旨の報告がありました。

時間	内容	講師
15:45～	開会挨拶 基盤教育センター概要及び改編について	瀨瀬 守 (基盤教育センター長)
15:55～	言語と文化科目	洞澤 伸 (言語と文化部会長)
16:05～	岐阜学科目	大宮 康一 (岐阜学部会長)
16:15～	数理・データサイエンス・AI科目	横田 康成 (数理・データサイエンス・AI部会長)
16:25～	社会人リテラシー科目	白村 直也 (社会人リテラシー部会長)
16:35～	社会人リテラシー科目	清島 絵利子 (教育推進・学生支援機構准教授)
16:40～	質疑応答	
16:50～	閉会挨拶	山田 敏弘 (副学長)

先生方によるご講演と講評の様子



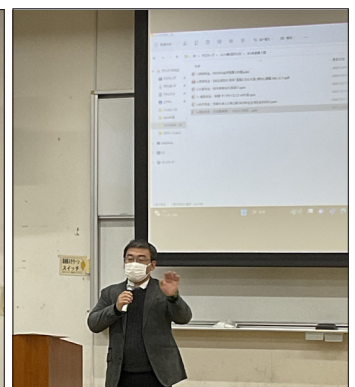
洞澤 伸先生



大宮 康一先生



横田 康成先生



山田 敏弘副学長による講評

社会人リテラシー科目（白村先生・清島先生）

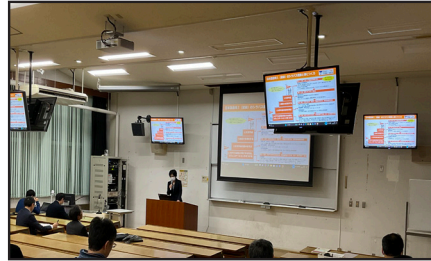
白村先生から「先輩社会人に学ぶ:実りある学生生活を送るために」では、OB・OGの動画10本の視聴後、推薦・紹介レポートの提出、さらに、他の学生が書いたレポートの評価といった課題を課していること、また、これらを通して目的を持った学生生活の設計や卒業後のキャリア形成のヒントを得ることなどを目標としている旨の紹介がありました。課題として、履修者をどう増やすか・動画の逐次更新などが挙げられました。

清島先生からは「日本語表現I（初級）」において、現在実施しているオンデマンド形式に加えて、令和5年度後学期からは対面形式での実施を予定しており、また、生成AIを活用して自分の考えを適切に表現できる力を養っていきけるような授業を展開していきたい旨の報告がありました。

(橋本 智裕・島田 昌也)



白村 直也先生



清島 絵利子先生



TOPIC
4

「学生ステータスシステム crescendo」を使ってみましょう！



既にご存知のみなさんも多いかもしれませんが、令和5年10月より、岐阜大学では「学生ステータスシステム crescendo (クレッシェンド)」という新しいシステムの稼働が始まりました(そう、もう使用できるのです！)。

このシステムは、学生のみなさんが大学生活における学びを主体的に進めていくために導入されたものです。学びを主体的に進めていく、と難しい言葉で言われると身構えてしまいそうですが、まずは気楽にシステムにログインしてみてください。

(URL: <https://status-system.gifu-u.ac.jp/start/auth/login>)



ログイン用 QR コード

ログインして、ポートフォリオ TOP というところをクリックしていただくと、みなさんの基盤的能力のレーダーチャートや成績履歴一覧、GPA などが見られると思います。まずはこうした情報をよく見て、自分の目指すべき姿をよく思い描いてみてください。そして、活動記録のところ、ぜひみなさんの大学生活での記録を残してってください。毎年の目標設定や振り返り、ゼミ、クラブ・サークル活動の様子など、岐阜大学での日々の記録を残しておくことは、きっと大学生活を楽しく計画的に送る助けにもなりますし、就職活動のエントリーシート作成などにも役立つはずですよ。

使ってみた感想はどうですか？ crescendo はみなさんが普段使っている学務情報システムや TACT、Teams とは目的も使用方法も異なる新しいシステムです。今後も岐阜大学生のみなさんの学生生活に寄り添っていただければと思いますので、ぜひブックマークに入れて、活用してくださいね。

(長谷川 暁人)



crescendo スタートページ



ポートフォリオ TOP ページ

TOPIC
5

東海国立大学機構 連携開設科目「高年次教養セミナー」のご紹介

令和5年度から東海国立大学機構の連携開設科目になった本セミナーは、令和6年1月末に後学期の最終回を無事に終了しました。後学期は1年生も受講し、3年生とともに机を並べ、積極的に意見交換をしていました。学部や学年の枠を超えて交流ができるのは、本セミナーの大きな特徴と言えます。名古屋大学の学生も前学期に引き続き受講があり、オンデマンド上ではありますが、各回の議論の際には、お互いに刺激を受けていたようです。

後学期は、里親制度、生物物理学、バイト敬語、哲学、映画の SCRIPT で英語を学ぶなど、様々な分野の先生方からご講義をいただきました。教養教育は、社会人になった時、公私にわたって直面した問題を解決するためのヒントを与えてくれます。決して無駄になることはありません。本学に在籍している間に、貪欲に、幅広い教養を身に付けてください。

(清島 絵利子)



二村 玲衣先生ご講義の様子 (第1回)



洞澤 伸先生ご講義の様子 (第3回)



長谷川 暁人先生ご講義の様子 (第4回)

TOPIC
6

日本語表現Ⅰ（初級）における書評レポート展示

みなさん、図書館には足を運んでいますか。令和4年度から図書館との共同開催で、4月から6月、10月から12月の年2回、書評レポートの優秀作品と合わせてそれらの対象の図書の展示をしていることをご存じでしょうか？1年生に限らず多くの学生のみなさんに、本学の学生が書いた優秀なレポートに触れてもらうことで、今後の文章作成に役立ててほしいという思いから始めたイベントです。

令和5年度も10月から12月の3ヶ月間、前学期受講生1,061名のなかから、上位100名の書評レポートと合わせて対象の書籍などを展示しました。昨年と同様、多くの学生がブースの前に立ち止まり、スライドを見たり、書評レポートのファイルを眺めたりしていたそうです。展示図書では、社会学や心理学分野の貸出が多かったようです。引き続き、後学期の優秀作品は新年度4月ごろ展示予定です。ぜひ、図書館に足を運んで、多くの優秀作品と書籍に触れてみてください。

(清島 絵利子)



書評レポートとスライドを図書館入口の特設ブースにて展示



書評レポートファイル

基盤教育センター (令和6年3月現在)

センター長	瀬瀬 守	専門分野: 化学
副センター長	橋本 智裕	専門分野: 化学
副センター長	島田 昌也	専門分野: 食品栄養学
副センター長	清島 絵利子	専門分野: 日本語学

岐阜大学 教育推進・学生支援機構 基盤教育センター

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1
TEL 058-293-3007
<https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/>

瀬瀬 守 清島 絵利子 責任編集